



2021・2・1

第 399 号

101-0065 東京都千代田区

西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

9条持つ日本こそ核兵器廃絶の先頭に

核兵器禁止条約の締結を訴え

【横浜市神奈川区／神奈川区 9条の会】

核兵器禁止条約が発効した1月22日、神奈川県9条の会は県建設労や共産党県委員会と合同で、JR東神奈川駅で宣伝をおこない、発効を祝いました。

参加者は「核兵器禁止条約の発効を心からお祝いします。日本が一刻も早く批准するよう、みんなで声をあげていきましょう」と訴えました。

宣伝の飾り付けの風船を受け取った子どもの両親（夫34、妻24・神奈川区）は「条約のことは知らなかったけど、核兵器が禁止されるのはとてもいいことです。この子が大きくなった時の世界が平和であって欲しい」と話しました。

アメリカの核の傘から離脱を

【岡山県高梁市／高梁9条の会・原水爆禁止高梁地区協議会】高梁9条の会・原水爆禁止高梁地区協議会は市内国道沿いで、核兵器禁止条約が国際法として成立・発効した歴史的な日を記念して、22日、「政府は核禁条約に署名して批准を」などの横断幕

コロナ禍で開催時間変更です！

九条の会事務局主催 学習会

菅政権の成立と改憲問題の新局面

◇日時 2021年2月17日（水）

9時30分～12時

◇会場 文京区民センター 3-A 会議室

◇講演

*バイデン政権の成立と日米軍事同盟の強化—第5次アーミテージレポートにもふれて

布施 祐仁（ジャーナリスト）

*敵基地攻撃能力保有策動の狙いと憲法9条 前田 哲男（軍事評論家）

◇参加費 一般1000円 学生300円

◎コロナ対策で先着90名（あらかじめ参加希望者と人数をお知らせください）

◎学習会の全容は九条の会ホームページで視聴できます（2月18日より視聴可）

を掲げて合同のスタンディングを行い市民

に訴えました。

宣伝には8人が参加。「被爆国・日本の政府がアメリカの核のカサから抜け出し、9条を高く掲げて、『核兵器のない世界』『戦争のない世界』をめざして進むよう力を合わせましょう」と通行人に元気によびかけました。

批准に背を向ける政府に怒り

【東京都小平市／小平九条の会等】

核兵器禁止条約が発効した22日、小平市では小平九条の会、女性団体、保健生協の人たちが西武新宿線小平駅に25人が集まり、日本政府に条約の批准を求める署名・宣伝をおこないました。

参加者のリレースピーチでは、被爆者と連携しすすめてきた核兵器廃絶運動がこの日を迎えることができた感慨や、批准に背を向ける日本政府への怒りが語られました。

コロナ感染拡大による制約はありましたが、「多くの国に批准を広げなければ。なによりも日本政府に」とのよびかけに通行人が署名に応じました。

この日は、同市内の花小金井駅前や鷹の台駅前でも同様の宣伝行動が実施されました。

訴えに賛同し会報の読者に

【神奈川県海老名市／えびな・九条の会】

えびな・九条の会は1月9日、海老名駅東口自由通路で、ことし最初の駅前スタンディング「生かそう憲法」を行い、9人が参加しました。

手がかじかむような寒さのもと、「コロナ対応一医療・検査の拡充を」「守ろう憲法9

条」「学術会議任命拒否に抗議します」などのポスターを30分間掲げて、サイレントでアピール。

平和の手作りメッセージカードを渡された高校生2人は、じっと目を通しつつ、「憲法9条については習いましたよ。がんばってください」と激励の言葉を寄せてくれました。

海老名市内に住む男性は、改憲発議反対の署名にすすんで応じるとともに、菅義偉首相について、「スガから濁点をとると、スカ。本当の政治家ではない」と厳しい口調で批判。九条の会の会報の読者になることになりました。

また、会員から多額の募金が寄せられ、封書に「いつもありがとうございます」と記されていました。

街頭宣伝への反応に希望もち

【東京都文京区／本郷・湯島九条の会】

1月12日、9名の方々が参集し、演説の途中から小雪がちらつく新年初の昼街宣となりました。コロナのせいか人影は多くありませんでした。それでも参加者はそれぞれプラスターを持ち、マイクではコロナ災厄は菅義偉政権による人災であることを訴えました。

さらに都立・公社病院の「独法化」を進める東京都は、1月都議会で「独法化の定款」の採択を狙っていると糾弾しました。そして国家は国民によって成立し、政府は選挙で国民に選ばれた議員によってつくられている、国民一人ひとりの声、行動によって新しいわたしたちの政府をつくることのできる、このことを力強く訴えかけまし

た。

わたしたちの訴えをじっと聴き入っていた白髪のご婦人の方がおられ、聴き終わると、小さく頭を下げ、信号を渡っていきました。こうしたお一人おひとりの力こそ歴史を変えていくことに確信をもちました。

今年こそ、わたしたちの政府をつくる明るい記念すべき年にしませんか。

〔プラスターの訴え〕

- ・「選挙に行こう。冷たい自助の人はいらない」
- ・「ダンマリスガ首相『お答えは差し控える』111回」
- ・「それは当たらない。壊れたレコード。棒読み。支離滅裂。答弁不能」
- ・「会食パーティー閉めて、国会開け」
- ・「学術会議は軍事研究のご意見番、任命拒否は許さない」
- ・「保健所、増設・拡充を」

元気よく新年のスタート

【奈良県広陵町／奈良広陵九条の会】

1月19日（火）夕方、近鉄五位堂駅前今年初の19の日行動を行い、スーパーメガホン宣伝、ビラ配布、「改憲発議に反対する全国緊急署名」に取り組みました。寒波襲来で非常に寒い中でしたが、通常国会が始まり、また今年最初の行動であって、12人が参加しました。

訴えではこのコロナ危機の中でも菅首相の答弁は「早く、厳しく、短く」が基本で、中味はすべて国民の自己責任ばかり。一方国民不在の改憲手続き法の改正を急ぎ、敵基地攻撃能力保有で「戦争する国」づくりを急いでいることを批判しました。

大阪に緊急事態宣言が出されていることもあって、乗降客、通行人もまばらで結果はビラ配布50枚、署名は1筆にとどまりましたが、ともかく今年も集まって元気よく活動のスタートを切ることができたので今後につなげたいと思います。

（奈良広陵9条の会 下村）

小森親子の対談に励ましと希望

【東京都足立区／千住九条の会】

1月24日「小森香子・小森陽一親子対談」を開催しました。コロナ感染急増のなか、万全なコロナ対策を講じ、厳しい入場制限（50%）のなかでも55名参加で盛会となりました。小森陽一事務局長が小森香子さんにお話をうかがうという形で親子対談を進めていただきました。

小森香子さんの戦争体験、戦後の神戸女学院での自治会民主化運動、左翼グループの責任者として活動されたことがその後の生き方を決めたと語ってくれました。また朝鮮戦争勃発、レッドパージ、血のメーデー事件など不穏な日々のなかでの結婚、命がけの出産、労働運動一筋の夫と未熟児をかかえ内職をしながら頑張って生き抜いてこられたこと、夫の仕事の関係で家族ぐるみでチェコのプラハで4年間暮らし、リジェッツ村（ナチスにより村を消滅させられた）で、現地のおばあさんに「あなたは日本人の母親。ヒロシマの母親ね」と言われ、日本人として広島、長崎のために何かしなければと子供たちと誓ったことを語ってくれました。

帰国してすぐに詩を書きはじめ、新婦人や平和運動にかかわり、新しい人生が始ま

ったと。親子で平和運動に共に参加することで絆は強まり、子どもを育てると同時に親も育てられた、活動のバトンタッチをわが子にしなければならぬと責任感が芽生えたと語りました。

最後に「母 いのちのバトン」を朗読してくださいました、参加者は涙しながら聴き、朗読後、しばらく拍手が鳴りやみませんでした、「前向きな生き方に圧倒された。

「詩の朗読に泣いた」「元気をもらった」「もっと沢山の親子に聞いてもらいたかった」と皆様より絶賛されました。

コロナ禍で不安で暗くなりがちですが、希望が見え元気をもらった集会となりました。(千住九条の会 中田順子)

《全国首長九条の会からのアピール》

平和と社会正義実現に大きな力

前広島市長 秋葉忠利

2021年1月22日、核兵器禁止条約が発効しました。核廃絶を目指して、長い間運動を続けてきた私たちにとって、重要な一里塚です。この機会に、この条約の意義と、最終目標達成のための今後の具体的活動について、簡単にまとめておきましょう。

まず、指摘しておきたいことは、この条約が締結に至ったのは、世界の多数派である私たち市民の力があつたからだということ。核保有国ならびに核依存国(その中には、残念ながら我が日本も入っています)は、「核抑止論」という虚構が真実であると主張し続け、国連の安全保障理事会やNPT再検討会議等における「拒否権」を行使して、核兵器の存続とそれに基づい

た世界観を世界に強制してきました。

このような暴論・暴挙を抑えて核兵器禁止条約の制定が実現したのは、国連の中に埋め込まれている「多数決」による重要事項の決定プロセス——典型例が総会の多数決による決定——を賢明に活用した世界の市民とNGO、ならびに志を同じくする多くの国々の懸命の努力があつたからではないでしょうか。

この条約が本来の力を発揮し核廃絶が実現するよう、さらなる努力が必要ですが、私たち市民のできる二つの活動を提案しておきます。

一つは、例えば、アメリカ軍基地のある自治体で、「核兵器禁止条約で禁止されている核兵器が貯蔵されている可能性があるので調査して欲しい」という要請を、当該自治体や警察に訴えるというデモや非暴力・抵抗活動を活発にする。またこれに類した活動を実行する。

もう一つは、核保有国・依存国の子どもたちに働き掛けて、各家庭の中で子どもたちが、「世界では核兵器が禁止されているのに、私たちの国では何故、世界の意思に反して、禁止されていないと言い張るの?」という疑問を保護者に投げ掛けて、大人の責任を問う運動を起す。

その他、独創的な運動を展開することで2021年を、コロナの蔓延に負けず、核兵器禁止条約を有効な道具としてしつつ、私たちが平和と社会正義のために大きな力を発揮する一年にしましょう。

(「全国首長九条の会ニュース」第16号)